安全データシート

作成日　2012年11月13日
管理コード 12Nov02-014

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	Chloramphenicol
製品コード	BP904-100
供給者の会社名	サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社
住所	〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-9 C棟2F
担当部門	CMD事業本部
電話番号	0120-753-670
FAX番号	0120-753-671
メールアドレス	info.lcms.jp@thermofisher.com
緊急連絡電話番号	0120-753-670
推奨用途及び使用上の制限	分析機器用参照試薬

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	可燃性固体 区分外
	自然発火性固体 区分外
健康有害性	急性毒性(経口) 区分外
	皮膚腐食性及び刺激性 区分2
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分2B
	生殖細胞変異原性 区分1B
	発がん性 区分1B
	生殖毒性 区分2
	特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(気道刺激性)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(骨髄、神経系、消化器)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2(心臓)
環境有害性	水生環境有害性(急性) 区分外
	水生環境有害性(長期間) 区分外
	上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示

注意喚起語	危険
危険有害性情報	皮膚及び眼刺激
	遺伝性疾患のおそれ
	発がんのおそれ
	生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
	呼吸器への刺激のおそれ
	長期にわたる、又は反復ばく露による骨髄、神経系、消化器の障害
	長期にわたる、又は反復ばく露による心臓の障害のおそれ

注意書き

安全対策	使用前に取扱説明書を入手すること。

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
容器を密閉しておくこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
粉じん、ヒュームを吸入しないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

応急措置
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。

保管
容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
施錠して保管すること。
換気の良い冷所で保管すること。

廃棄
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　単一物質
化学名又は一般名　クロラムフェニコール

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
クロラムフェニコール	95%以上	Cl2CHCONHCH(CH2OH)CH(OH)C6H4NO2	局方	4-(7)-991	56-75-7

分類に寄与する不純物及び安定化添加物　情報なし

化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）	第2種指定化学物質（法第2条第3項、施行令第2条別表第2）	2，2－ジクロロ－N－[2－ヒドロキシ－1－（ヒドロキシメチル）－2－（4－ニトロフェニル）エチル]アセトアミド（別名クロラムフェニコール）（政令番号：30）（100%）

4. 応急措置

吸入した場合
空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

	ばく露又はその懸念がある場合は、医師の診断、手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。 皮膚を速やかに洗浄すること。 多量の水と石鹸で洗うこと。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。 ばく露又はその懸念がある場合は、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 ばく露又はその懸念がある場合は、医師の診断、手当てを受けること。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

5. 火災時の措置

消火剤	小火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水、一般の泡消火剤。 大火災：散水、水噴霧、通常の泡消火剤。
特有の危険有害性	加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災時に刺激性、腐食性及び／又は毒性のガスを発生するおそれがある。 可燃性物質：燃えるが、容易に発火しない。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外は近づけない。 風上に留まる。 作業者は適切な保護具（8. ばく露防止及び保護措置の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 低地から離れる。 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。
環境に対する注意事項	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 環境中に放出してはならない。

封じ込め及び浄化の方法・機材		危険でなければ漏れを止める。 漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い		
	技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
	安全取扱注意事項	使用前に使用説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 火気注意。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 排気用の換気を行うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
	接触回避	『10. 安定性及び反応性』を参照。
	衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。
保管		
	安全な保管条件	容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。 保管場所には化学品を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 酸化剤から離して保管する。 施錠して保管すること。
	安全な容器包装材料	包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）	
		日本産衛学会 ▪ （2011年版）	ACGIH ▪ （2012年版）
クロラムフェニコール	未設定	未設定	未設定

設備対策		本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 高熱取扱いで、工程で粉じん、ヒュームが発生するときは、換気装置を設置する。
保護具		
	呼吸器の保護具	必要に応じて個人用呼吸器保護具を使用すること。 換気が不十分な場合には、適当な呼吸器保護具を着用すること。
	手の保護具	保護手袋を着用すること。
	眼の保護具	眼の保護具を着用すること。 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）
	皮膚及び身体の保護具	必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観	物理的状態	固体
	形状	固体
	色	オフホワイト
臭い		わずかにあり
臭いのしきい（閾）値		データなし
pH		5-7

融点・凝固点		データなし
沸点、初留点及び沸騰範		149-153℃
引火点		データなし
蒸発速度(酢酸ブチル＝1)		データなし
燃焼性(固体、気体)		データなし
燃焼又は爆発範囲	下限	データなし
	上限	データなし
蒸気圧		データなし
蒸気密度(空気＝1)		データなし
比重(密度)		データなし
溶解度		データなし
n-オクタノール／水分配係数		データなし
自然発火温度		データなし
分解温度		データなし
粘度(粘性率)		データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	通常の条件では危険有害な反応は起こらない。
化学的安定性	通常の条件においては安定である。
危険有害反応可能性	過剰な圧力又は熱を放出する危険有害な反応又は重合は起こらない。
避けるべき条件	過熱。粉塵の発生。
混触危険物質	強酸化剤。
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素、塩化水素ガス。

11. 有害性情報

急性毒性	経口	ラットを用いた経口投与試験のLD50　2,500 mg/kg(RTECS (2006))から、GHS:区分外に該当する。(NITE)
	経皮	データがなく分類できない。
	吸入(蒸気)	データがなく分類できない。
	吸入(粉じん)	データがなく分類できない。
皮膚腐食性及び刺激性		「皮膚を刺激する」の記述(Fisher Scientific 社のSDS)により、GHS:区分2「皮膚刺激」に該当する。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性		「眼を刺激することがある。」の記述(Fisher Scientific 社のSDS)により、GHS:区分2B「眼刺激」に該当する。
呼吸器感作性		データがなく分類できない。
皮膚感作性		データがなく分類できない。
生殖細胞変異原性		IARC 50 (1990)、IARC 10 (1976)の記述から、経世代変異原性試験(優性致死試験)で陰性、生殖細胞in vivo変異原性試験(染色体異常試験)で陽性、体細胞in vivo変異原性試験(染色体異常試験)で陽性、生殖細胞in vivo遺伝毒性試験なしであることから、GHS:区分1B「遺伝性疾患のおそれ」に該当する。
発がん性		NTP (2005)でR、IARC (1990)でGroup 2Aに分類されていることから、GHS:区分1B「発がんのおそれ」に該当する。(NITE)
生殖毒性		IARC 10 (1976)の記述から、ラットの催奇形性試験において、親動物での一般毒性に関する記述はないが、仔に水頭症、口蓋裂を含む奇形がみられていることから、GHS:区分2「生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い」に該当する。(NITE)
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		「気道を刺激することがある。」の記述(Fisher Scientific 社のSDS)により、GHS:区分3(気道刺激性)「呼吸器への刺激のおそれ」に該当する。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）	ヒトについては、「クロラムフェニコールを処方後再生不良性貧血を発症し1年後に急性骨髄芽球性白血病で死亡した5歳児の報告」、「12gのクロラムフェニコールを投与され4ヵ月後に骨髄抑制を起こした63歳男性例」(IARC 10 (1976))、「長期間投与後の他の有害作用には皮膚発疹、消化管不良および神経障害があげられる」(IARC 50 (1990))、「網膜における両側性のガングリオン細胞の消失および視神経線維の萎縮が生じる」(HSDB (2005))等の記述があることから、骨髄、神経系、消化器が標的臓器と考えられた。 以上より、GHS:区分1(骨髄、神経系、消化器)「長期にわたる又は反復ばく露による骨髄、神経系、消化器の障害」に該当する。(NITE) ヒトについて、「心筋障害をともなう心血管虚脱と左心室機能の低下が超音波心臓検査で判明した」(HSDB (2005))の記述があることから、心臓が標的臓器と考えられ、ヒトにおける心臓への影響を記載した評価書はPriolity2に属するため、GHS:区分2(心臓)「長期にわたる又は反復ばく露による心臓の障害のおそれ」に該当する。(NITE)
吸引性呼吸器有害性	データがなく分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境有害性（急性）	甲殻類（オオミジンコ）の48時間EC50=345000μg/L（AQUIRE、2003）から、GHS:区分外に該当する。(NITE)
水生環境有害性（長期間）	難水溶性でなく（水溶解度=2500mg/L（PHYSPROP Database、2005））、急性毒性が低いことから、GHS:区分外に該当する。(NITE)
オゾン層への有害性	モントリオール議定書の附属書に列記されたオゾン層破壊物質を含まないため分類されない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を依託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
汚染容器及び包装	容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規則	海上規制情報	非危険物
	航空規制情報	非危険物
国内規制	陸上規制	非該当
	海上規制情報	非危険物
	航空規制情報	非危険物
特別の安全対策		輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れを生じないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。

緊急時応急措置指針番号	なし

15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）	第2種指定化学物質（法第2条第3項、施行令第2条別表第2）（2，2－ジクロロ－N－[2－ヒドロキシ－1－（ヒドロキシメチル）－2－（4－ニトロフェニル）エチル]アセトアミド（別名クロラムフェニコール））

16. その他の情報

連絡先	サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社
参考文献	NITE GHS分類公表データ RTECS(2006-2011) Fisher Scientific 社のSDS

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。